

平成29年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月6・11日実施)	総合評価(3月20日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	生徒の学力向上と希望進路を保障する教育課程編成と授業改善に取り組む。	①教育課程の充実と改善を推進する。 ②組織的な授業改善を進め、生徒の学力向上と家庭学習の習慣を定着させる。	①平成30年度実施の教育課程において、授業時間数の充実など授業の量を確保する。 ②各教科でアクティブラーニングの視点(対話的・主体的で深い学び)にたった授業を充実させる。 ③近隣小中学校との相互授業見学を行う。 ④各教科で外部テスト等の結果を分析し、課題の共通理解のもと授業改善を行う。 ⑤計画的な小テスト及び課題を実施し、家庭学習の習慣を定着させる。	①授業の量を確保する教育課程を編成することができたか。 ②各教科研究授業を実施するとともに、授業改善研究が定期的・継続的に実施できたか。 ③近隣小中学校への授業見学者を増やすことができたか。 ④生徒による授業評価結果に向上が見られたか。 ⑤生徒の平均家庭学習時間を増加させることができたか。	①教育課程を見直し1単位35時間を確保できた。 ②各教科研究授業を行うとともに講師を招きアクティブラーニングの視点の授業について研修した。 ③近隣小中学校との相互授業見学を行った。 ④第2回の生徒による授業評価の主体的な学びの項目において教科平均3pt向上が見られた。 ⑤2学年において家庭学習の時間が約10分増加した。	①さらに新たな行事等の計画を進めていく。 ②授業研究を深めるために授業研究期間の日程の幅を広げる。 ③家庭学習時間が下級生ほど少ないので各教科でさらに家庭学習の習慣を定着させる工夫を考えていく。 ④進路が決定した後の学習時間を定着させた。	<学校評議員> ・授業が一番で、授業改善をどう進めていくか大事である。 ・授業評価で評価のよい取組が他教科にも反映できるとよい。 ・授業の満足度が上昇しているのは、先生方の努力の成果であり素晴らしい。 ・自習できる場があるとよい。 <保護者> ・家庭での学習が身につく、部活動と両立を果たしていた。 ・小中学校との連携は広報誌でも紹介されておりとてもよい。 ・家庭学習については生徒の意識が上がるような働きかけを工夫してもらいたい。	①授業時間数を確保することができた。新学習指導要領導入に向けて高大接続改革等を踏まえながら、研究を進めていく必要がある。 ②外部講師による研修や、近隣の小中学校との相互授業見学等を通じて教員の指導力の向上を図り、生徒による授業評価で分かり易い授業の項目が平均2pt上昇した。家庭学習時間は1年生で入学当初から減少していた。	①地域・家庭との連携・協働により社会に開かれた教育課程を実現する体制づくりと、カリキュラム・マネジメントの推進を図る。 ②校内研修や授業互見週間、小中学校との相互授業見学等をさらに充実させ、学校全体で主体的・対話的で深い学びの視点からの教育課程の質的改善を図る。また、1年生後半からの学習に対する意識改革に取り組む。
2 生徒指導 ・支援	①生徒の主体的な活動による学校行事や生徒会活動等を通し、生徒がお互いを尊重し、協働する姿勢を身に付けさせる。 ②生徒の多様性を踏まえた支援体制の充実を図る。	①学校行事の企画・運営を通して、生徒の主体性、責任感、連帯感を向上させる。 ②支援教育についての理解を深め、日々の指導・支援の質を向上させる。	①行事の目的を明確にするとともに教職員・生徒が相互にその目的を意識化することで行事を企画・運営する。 ②教育相談チームが中心になり、研修等を含めた教育相談年間指導計画を作成し、実践していく。	①それぞれの行事の目的が達成され、高い満足度が得られたか。 ②教育相談チームによる啓発やスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、教育相談に関する組織的対応が進んだか。	①生徒会役員との話し合いを行い、各行事において生徒主体の計画を立て運営することができた。 ②社会見学や修学旅行において、総合的な学習の時間を通じて、「事前調査」と「振り返り」によって十分な成果を得られた。 ③問題を抱えた生徒が発生した際にケース会議等を行うなど教育相談チームが中心となり、きめ細やかに対応することができた。	①生徒の規範意識をさらに高めたい。 生徒がさらに意欲的に行事に参加できるように、目的を明確にして魅力ある行事になるように時間を確保する。 ②問題を抱えた生徒が増加し担任の負担が増している。教員の対応力の向上を図り、学校全体の生徒支援体制を再構築するとともに、鎌倉養護学校分教室等外部からの支援について早急に検討する必要がある。	<学校評議員> ・自転車の乗車マナーが悪いと自治会や小学校PTAでも話題になり苦情も寄せられている。 ・交通安全教育を授業の中に取り入れるなど指導を徹底するとともに各家庭での指導も必要である。 ・道路の整備や標識の設置等学校とPTAと地域が一体になり、行政に要望を出すべきである。 <保護者> ・自転車の乗車マナーの向上のために、疑似体験、VR、スクエアドストリートなど経験できる。 ・生徒は潜在能力を沢山持っている、金井祭等の行事を生徒で仕切らせるなど力を発揮させてほしい。 ・スクールカウンセラーとの連携ができていた。	①生徒の主体性の向上については、一定の成果を挙げることができた。部活動の部員を含め、規範意識の低い生徒がおり引き続き指導を行う必要がある。特に、自転車の運転マナー等交通安全指導は強化する必要がある。 ②教育相談チームを中心とした生徒の支援体制が機能し、成果を挙げている。 問題を抱えた生徒が増える中で、担任個人の負担が増すことがないようにする必要がある。	①新たな行事や制服の検討などに生徒が主体的に参画できるような体制を構築し、主体的な学びを促し行事の目的を共有して取り組めるよう行事の全体計画と指導計画を作成する。全校集会や日常の声かけ等を通して規範意識の高揚を図る。交通安全教育に関する学年ごとの指導目標等を定めた年間計画を作成し計画的に推進する。 ②教育相談コーディネーターを中心に、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと連携を図るとともに、特別支援学校(鎌倉養護学校分教室)のセンター的機能を活用しながら、さらに充実した生徒支援体制を構築する。

3	進路指導・支援	卒業10年後の未来像の実現に向け、生徒の主体的な進路選択を支援する体制の充実を図る。	①希望進路を具体的に持たせその実現のために家庭学習を習慣化させる。 ②一般受験による進学率を向上させる。	①キャリア支援グループと学習支援グループ、学年が定期的に会合を持つ。1, 2年生に自らの10年後の未来像を描かせ、それにつながる卒業後すぐの進路を可視化させる。 ②進路講習・補習を充実させる。 ②安易に推薦受験に流れることのないよう指導を行い、一般受験を目指す生徒を増やす。	①関係グループと学年の会合を定期的に開催できたか。生徒個々に自分のキャリア計画を可視化させられたか。 ②前年度に比して一般受験の割合が増えたか。 ②志望する大学等への希望進路が実現したか。	①総合的な学習の時間等において長期的な目標を立てたうえで、その実現に向けた短期的な目標を考えさせた。 ②一般受験の割合は昨年並みであった。 ②41期生の4月時点の進路希望者の内訳は四大303、短大16、専門学校33、就職1であったが、3月末時点の進路決定者の内訳は、順に240、19、58、0、進学予定・その他35となり課題が残った。	①可視化をするため活動の記録の蓄積方法の改善を図る。 ②卒業10年後の未来像を明確にする指導の工夫が必要である。 ②推薦入試やAO入試で進路を決定する生徒が増加しているため、一般受験を促すための時期やその方法等について検討する必要がある。 ②次年度3年生に合格体験等を伝える。	<学校評議員> ・安易に推薦に流れないようにする方向性はよい。 ・高大接続改革の流れと授業の在り方は完全にリンクさせなければならず、そこが今後問われてくる。 <保護者> ・今後受験が大きく変わるので、大学受験後の自分の目標を見据えた進路選択ができるように指導してもらいたい。 ・単純に受験指導だけでなく、将来の仕事や社会背景を見据えたうえでの職業の方向性、進学の方角性が決められるように支援してほしい。	①総合的な学習の時間を中心に、生徒のキャリア能力の向上を図り一定の成果を挙げることができた。 「基礎的・汎用的能力」の到達目標を定め、いつ・どのように育んでいくのか、系統だったキャリア教育を推進していく必要がある。 ②一般受験による受験者数は増加しているが、合格率は低下している。	①学年間の連携を図りながら、育成しようとする能力の到達目標を常に確認し、計画・実践・評価・改善を繰り返しながら取り組む。 ②学習に対する基本的な姿勢の指導に努める。家庭での学習を自己管理できるように、引き続き小テストや課題等の出し方の工夫を行う。 新学習指導要領や高大接続改革を踏まえた不断の授業改善に取り組む。
4	地域等との協働	地域や保護者との連携を推進し、開かれた学校づくりを進める。	近隣の小中学校や企業及び自治会等との連携の機会、内容を充実させ、地域との相互理解、相互支援を進める。	①地域防災訓練等地域の行事に関係グループ及び生徒が継続的に参加する。 ②住友電工との連携を、キャリア学習、あいさつ運動、防災訓練等を通じて深める。	①地域防災訓練等地域の行事に昨年度を上回る参加があったか。 ②住友電工との連携による学校行事を複数回実施できたか。	①9月の地域防災訓練に7名参加し昨年より5名増加した。 ②地域を知るフィールドワークで工場内の見学とキャリアガイダンスを受けることができた。挨拶運動も継続的に行った。	①学校と地域が一体となった防災を目指して各種訓練に相互に参加できるような訓練の在り方を検討する。 ②コミュニティ・スクールを通じて新たな連携や相互支援の在り方を検討する。	<学校評議員> ・地域の防災訓練に積極的に参加してもらいたい。 <保護者> ・住友電工や田谷の洞窟など地域との連携は大変よいので今後も継続することを望む。 ・近隣小中学校に対する部活動体験などを開催し学校をアピールしてもらいたい。	①D I Gの実施や、地域防災訓練への参加を通じて地域を意識した防災教育を行うことができた。防災訓練の目標を周知し、生徒の防災意識の高揚を図る必要がある。 ②住友電工と各種連携を図ることができた。あいさつ運動や授業での連携が行えるとよい。	①地域の防災訓練に計画段階から参加するなど、地域と連携した防災訓練をさらに充実させる。 ②企業の持つ知的財産や、横浜市登録地域史跡「田谷の洞窟」など地域の特色を学校教育に生かせるような新たな連携を構築する。
5	学校管理 学校運営	安全・安心な学校づくりを推進する。	①老朽化や危険箇所への対応を行う。 ②実践的な防災訓練を行う。 ③事故、不祥事の未然防止を徹底する。	①修繕・補修を要する箇所を具体的に把握し、対応を進める。 ②D I Gを生徒向けに実施し地域連携の重要性に注意喚起させる。避難訓練を地震で実際に一部崩壊した想定下で実施する。 ③全ての業務において事故、不祥事未然防止を徹底する。	①教育環境に対する生徒や保護者の評価は高まったか。 ②生徒及び職員の防災に対する意識は向上したか。 ③事故、不祥事ゼロを達成できたか。	①修繕・補修を計画的に行うことができた。 ②初めて実施したD I Gは、約8割の生徒が周辺の危険箇所を認識し、生徒の意識を高めることができた。第2回防災避難訓練では、約9割の生徒の防災意識を高めることができた。 ③事故・不祥事防止会議や研修会等を通じて事故防止意識を高めることができたが、連携が不十分な事例が発生した。	①関連部署が連携を図りながら、引き続き計画的に修繕・補修を行う。 ②訓練の実施時期や内容について検討する必要がある。防災訓練の目標等を定めた年間計画を作成し計画的に実施する必要がある。 ②訓練にさらに意欲的に取り組めるように、参加者に訓練目標・内容を周知徹底する必要がある。 ③事故・不祥事防止のために、各種点検マニュアルを見直すとともに、一人ひとりの事故防止意識をさらに高める必要がある。	<学校評議員> ・P D C Aのプロセスを踏まえて学校評価を行っており、とても良いことである。 ・地域では「訓練ではない」「避難者はお客ではない」ということを念頭に置いて取り組んでおり、学校でも積極的な防災訓練をお願いしたい。 <保護者> ・修繕が必要な箇所については、速やかに修繕されている。 ・保護者もD I Gを体験したい。 ・SNSやスマホが使えなくなった時などにどのような行動をとればいいのか知恵を養う必要がある。 ・引き続き事故・不祥事防止の徹底をお願いしたい。	①修繕・補修については、計画的に進めることができた。 事故・不祥事防止会議を職員会議の冒頭に位置づけるとともに、朝の打合せ等でも意識の涵養を行い、一定の成果を挙げることができた。 個人情報関係に関する確認方法等について、改善が必要である。 ②D I Gの実施や、地域の防災訓練への参加を通じて、地域を意識した防災教育を行うことができた。 年間及び各種防災訓練の目標を周知したうえでの訓練の実施と生徒の防災意識の高揚を図る必要がある。	①個人情報の点検方法等についてのマニュアルを見直すとともに、各種点検体制を再整備する。 ②地域の防災訓練に計画段階から参加するなど、地域と連携した防災訓練をさらに充実させる。